

小学校

平成 5 年 度

# 教育研究員研究報告書

社 会

東京都教育委員会

平成5年度

教育研究員名簿

分科会	地区	学校名	氏名	分科会	地区	学校名	氏名
中学 分科会	千代田区 品川 目黒 大田 世田谷 杉並 豊島 足立 府中 日武蔵	和泉小 第四日野小 上目黒池小 洗足町小 桜井戸小 高井戸小 池袋第五小 梅島第二小 府中第五小 旭が丘第二小	滝本 仁巳 林 誠 黒木 信友 井伊 正吾 土志田喜代美 香月 義治 前田 雅也 川崎 義人 山倉 尚茂 ○上條 源慈 ◎福島	第五学年B	大田区 江戸川 八王子 調布 小金井 福生	東六郷小 仲町小 東小松川小 稲荷山小 北ノ台小 本町第七小 福生第七小	川田 誠 ○小林 理人 田中 孝宏 堀田 益男 大久保 秀和 山田 裕一 玉森 正一
			原野 隆 菊地 勇之輔 高田 昭夫 村田 聡 福嶋 信彦 ○太田 和幸 佐藤 カヨ子	第六学年			港区 江東区 世田谷区 北橋馬立 板橋区 練足葛 江戸川 東村山
第五学年A	台東区 荒川 八王町 清昭	育英小 本町東小 尾久宮前小 第七山田南小 清瀬第五小 共成小					

◎全体世話人      ○分科会世話人

担当課長    小島    宏    教育庁指導部初等教育指導課  
担当指導主事    田部井   洋文    教育庁指導部初等教育指導課

## 全体研究主題

一人一人の児童が意欲的に学習し、社会生活の意味について自分なりの見方・考え方を深めるための指導の工夫

## 目 次

1. 中学年分科会 一人一人の児童が体験的学習を通して自分とのかかわりで地域社会における生活の意味をとらえ、地域社会の一員としての自覚を高めるための指導の工夫 …………… 2
2. 第5学年A分科会 一人一人の児童が、産業や国土の様子について自ら問題をもって見方・考え方を深めていくことができる指導の工夫 …………… 8
3. 第5学年B分科会 一人一人の児童が、産業や国土の様子について、意欲的に追究し、自分なりの見方・考え方を深めていく指導の工夫  
——追究の段階における評価・支援を中心にして—— ……………13
4. 第6学年分科会 一人一人の児童が、歴史的事象について自らの問題を追究し、自分なりの見方・考え方を深めていくための学び合う学習活動と評価・支援の工夫 ……………19

○本年度は、新教育課程が全面実施されて2年目になる。新教育課程の基本理念は、21世紀を目前にして、社会の変化に自ら対応して主体的に生きていくことができる心豊かな人間の育成を図ることである。そのためには、児童の自ら学ぶ意欲や思考力・判断力・表現力などの資質や能力の育成が重視される。各学校においては、これらの資質や能力が一人一人の児童の身に付くような授業の改善が求められている。

○児童が社会の一員として行動し実践していくことができるようになるためには、社会生活の意味について、自分なりの見方・考え方を深めていくことが必要である。そこで、児童一人一人の興味・関心に根ざし、個の学習を成立させるために、教師はどのように児童の学習を評価し、支援していけばよいのか明らかにしたいと考え、全体研究主題を設定した。なお、研究の推進にあたっては、4つの分科会を設置し、各分科会ごとの研究主題を設定し、主に授業実践を通して、全体研究主題・分科会研究主題を究明していくように努めた。

一人一人の児童が体験的学習を通して自分とのかかわりで地域社会における生活の意味をとらえ、地域社会の一員としての自覚を高めるための指導の工夫

## I 研究主題設定の理由

学習指導要領、第3・4学年の目標において、「地域社会の成員としての自覚・発展を願う態度の育成」が重視されている。本分科会ではこれを受け、地域のよさを発見するような体験的学習を重視し、本研究主題を設定した。

児童は日頃から地域行事への参加、地域の施設や商店・商店街の利用、さらに工場、公共施設の見学等を通して、地域社会とのかかわりをもっている。こうした経験を基に中学年分科会では、児童が自分の生活を振り返り、自分の生活とその地域の人々とのかかわりに気付き、願いや営みを理解し、生き方に共鳴・共感できる児童を育てたいと考えた。そして、このような学習の過程で学んだことを自分の生活に生かすとともに、自分の生き方を考えられる態度、すなわち、地域社会の一員としての自覚の育成をめざすことにした。

地域社会の一員としての自覚を高めるためには、児童自らが地域の社会的事象に働きかける体験的学習が有効である。直接見聞きすることや社会参加等を行うことによって、実感をもたせて学習できることや、問題の解決をめざす中で、自分なりの見方・考え方を伸ばすことができること、さらに主体的に情報を収集し学び合いながら学習できるという点でこの学習の意義がある。地域行事への参加、地域の諸事象の観察や調査等の体験的学習を通して、地域への愛着や地域社会の一員として積極的にかかわっていかうとする意欲や態度を育てたい。このような意欲や態度を育てるためには、体験的学習を指導計画の中に効果的に位置づけ、児童の追究意欲を喚起することが重要となる。そして、体験的学習における児童の学びの姿を見取り、地域のよさに気付くことができる等の支援を行うことにより、地域社会の一員としての自覚が高まると考える。以上が本研究主題の設定理由である。

## II 研究のねらい

地域社会の一員であるという自覚を高めるための体験的学習、および教師の支援の在り方を明らかにする。

## III 研究の仮説

地域社会と自分のとのかかわりを明らかにし、地域のよさを発見することができるような体験的学習を進めることにより、児童は地域社会の一員としての自覚を高めることができる。

#### IV 研究の内容

##### 1 地域社会の一員としての自覚の高まった状態とは

中学年分科会では、児童のどのような姿を見取ることができれば、地域の一員としての自覚が高まったと考えられるかを検討した。児童の実態及び地域の実態から「育てたい児童像」13項目を設定し、このような児童を育てることを目指して、具体的な活動を工夫した。

##### ＜育てたい児童像＞

- ①地域に興味・関心をもつ子
- ②地域の姿をありのままにとらえることができる子
- ③地域について自分なりの考えをもてる子
- ④地域の行事に参加したり働きかけたりできる子
- ⑤地域とのつながりを実感できる子
- ⑥地域の人々の苦労や努力が分かる子
- ⑦地域の人々と交流する子
- ⑧地域の人々の気持ちを大切にする子
- ⑨地域を好きになる子
- ⑩地域のものを大切にする子
- ⑪地域のために活動する子
- ⑫地域にある施設を知り活用する子
- ⑬地域について学んだことを生活に生かす子

上記の児童像を目指した体験的学習によって、児童は自分の住む地域への愛着を深めたり、自分も地域の仲間の一人だという存在感・所属感・充実感・連帯感をもてたり、地域の人々の活動から自分の生活を振り返ったりすることができる。そして、地域や自分の生活をよりよくしていこうとする態度が育っていくものとする。

##### 2 「地域社会の一員であるという自覚」を高めるための体験的学習

児童は自ら考え、判断し行動する時に、意欲的・主体的に学習に取り組む。さらに実物に触れたり、実際に作業や操作したりする活動等を通して、実感をもって物事をとらえることができ、認識を高め心情を深める。

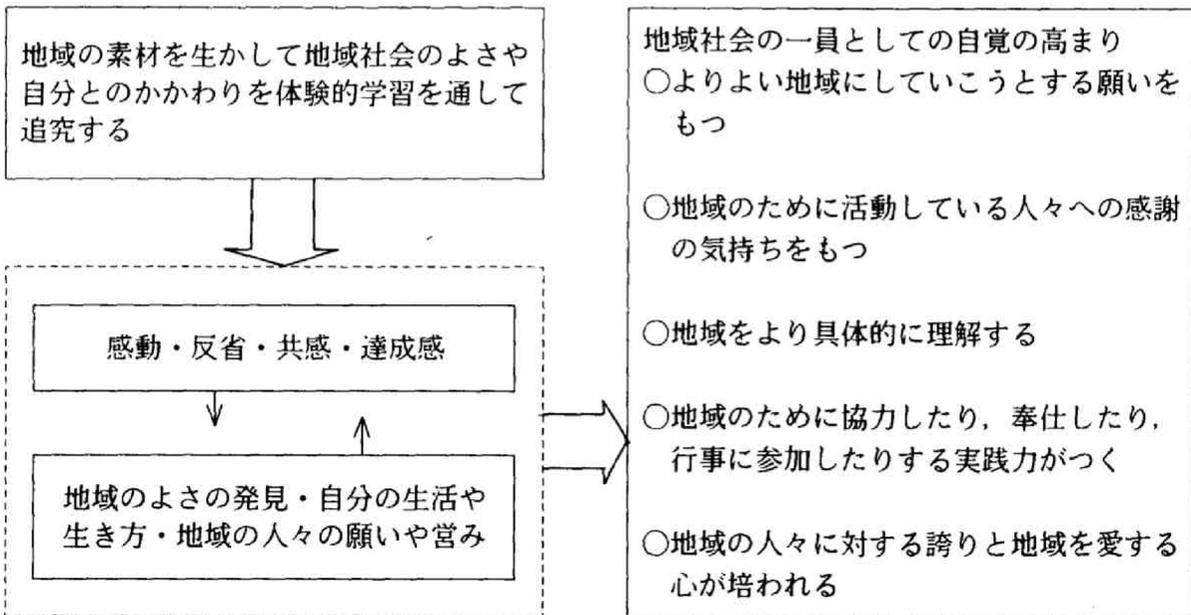
中学年の児童が、地域社会の一員としての自覚を高めしていくためには、具体的活動や体験を重視した学習活動が大切であるとする。本分科会では、主に「自分とのかかわりが明らかになるような体験的学習」と「地域のよさの発見につながる体験的学習」を中心に研究を進めた。

### 3 体験的学習の具体的内容

本分科会では、認識・心情の過程に即して段階的に体験的学習を組み立てることで、地域社会の一員としての自覚を高めていくことができるものと考えた。

(第3学年「学校のまわりのようす」より)

認識・心情の過程	体験的学習の例	
	地域社会のよさの発見・自分とのかかわりの明確化	
・自分の生活を振り返る	○感動や驚きがあり社会的事象への興味・関心を高める活動 [屋上から地域の様子を観察] [実際に地域を歩いてみる] [地域めぐりをして地域の人々の話を聞く]	○自分の生活と地域の人々やものとのかかわりに気付き追究意欲を高める活動 [通学路地図を作る]
・自分の生活と地域の人々やものとのかかわりに気付く		
・地域の人々やものに働きかける	○地域の人々の願いや営みに気付き人々の生き方に共感できる活動 [地域探検に行く] [地域の人から話を聞く・インタビューする] [地域のよいところさがし]	○地域の人々やものに働きかけ地域の人々の願いや営みに気付く活動 [施設を見学する・利用する]
・願いや営みに気付く		
・人々の生き方に共鳴・共感する		
・学んだことを生活に生かす	○自分たちの地域のよさに対する意識を高める活動 [地域を紹介するパンフレット作り]	○自分自身の生活に根ざした活動 [夢の町を作る] [地域の祭りや行事に参加する]



#### 4 評価と支援について

(第3学年「私たちの暮らしと商店街」より)

主 な 学 習 活 動	・評価の観点 ☆支援等 ( ) 評価の方法
(第1小单元：買い物しらべ)	
○スーパーマーケット見学① 〈学習問題をつかむための体験〉	・自分なりの発見・驚きがあったか (学習カード・自己評価カード)
○学習問題をつかむ 〈相互援助・相互評価〉	・自分なりの問題をつかめたか(学習カード) ☆調査や表現の方法 ☆グループの編成
○スーパーマーケット見学② 〈自分なりの疑問を明らかにする体験〉	・自分なりの疑問を進んで調べたか ☆調査の方法(観察)(学習カード)
○報告会で分かったことを報告し新たな学習問題をつかむ〈相互援助・相互評価〉	・調べたことを効果的に表現し情報交換ができたか (作品分析・観察) ☆表現方法 ☆グループの再編成
○スーパーマーケット見学③ 〈人々の願いや営みを調べるための体験〉	・販売の工夫や努力に気付いたか ☆調査や表現の方法 ・インタビュー補助
○見学や取材で分かったことを報告し、互いのよさを認め合う〈相互援助・相互評価〉	・取材したことを効果的に表現し情報交換ができたか (作品分析・観察) ☆表現方法 ☆グループの再編成
(第3小单元：買い物体験へ)	

興味関心をもち意欲的に活動したか

##### (1) 個の学習の成立のための評価と支援の工夫

一人一人の児童がやってみたいことを作品分析・行動観察等の様々な方法を組み合わせで見取り、個々の学習問題を明確化し、その追究のために必要な調査方法等の支援を続けた。例えば、品物の仕入れ先を調べたいがその方法が思いつかない児童には、品物の入っている段ボール箱の表示を解説したり、仕入担当者に聞き取りをする機会を設定したりした。また、同じような問題をもった児童をグループ化したり、調べたい事柄によってこれを再編成したりするなどの支援の工夫をした。

##### (2) 主体的学習を喚起する相互評価・相互援助の場面における評価と支援の工夫

調べたことを発表する(報告会)ことを繰り返し行うことによって、自分の考え方の不十分さに気付くことができると同時に、主体的な学習を喚起することができる。この場面では、互いの報告を聞き合い、互いに気付いたことや知っていることをアドバイスカードに書き込むようにした。カードに書き込まれた内容を見取り、情報交換を行う相手を紹介するなどの支援を行った。このことによって、マーケットの品物の豊かさや多様な仕入れ先が消費者の願いと密接な関係にあることに気付くことができた。

##### (3) 自分自身の学習を振り返り、学習内容への理解を深める自己評価の場面における評価と支援の工夫

振り返りカードを利用して、分かったことと分からなかったことを整理することや、他の児童からのアドバイスをもとに、自分の活動を振り返ることにより、学習内容の意味付けや修正をしたり、次への学習のねらいを明らかにしたりすることができた。学習結果について否定的な評価をカードに記していた児童に対して、他の児童とよさを見出し合う場面を設けることにより、自分の活動の意義やよさに気づき、追究意欲を取り戻すことができた。

## V 実践事例

### 1 小単元名 第3学年「地域のせいそう活動」（7時間扱い）

#### 2 小単元の目標

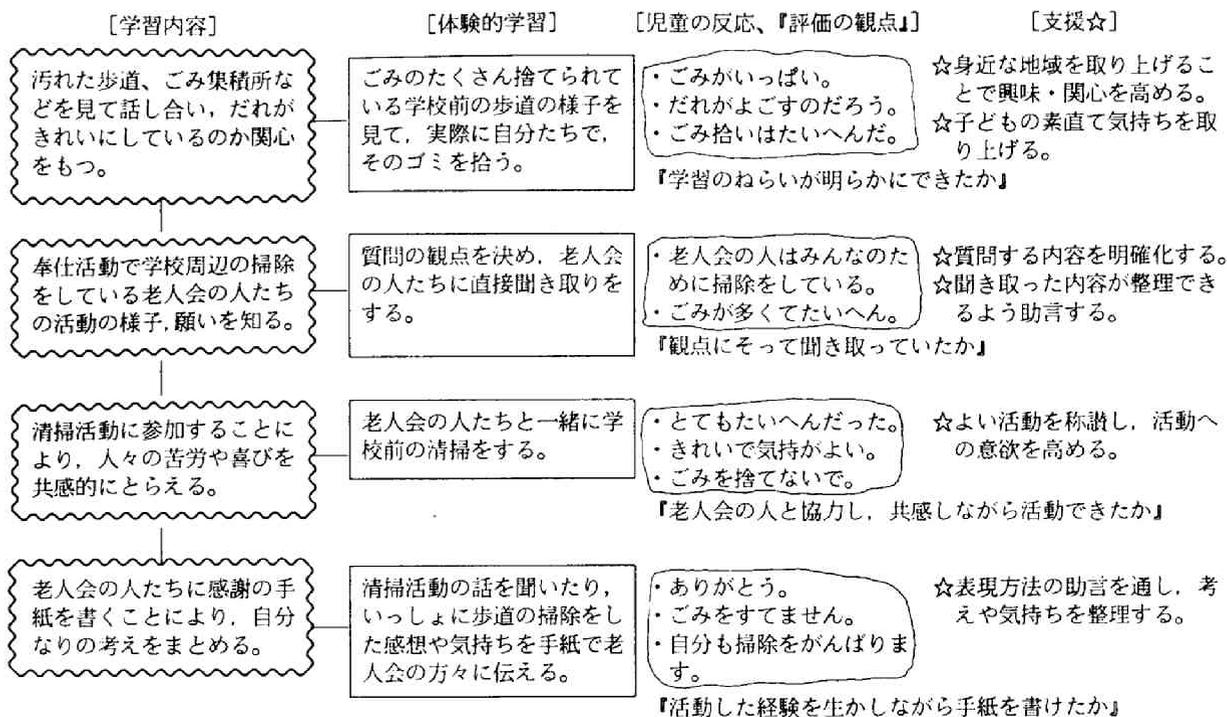
- ・地域の清掃活動の様子や参加している人々に興味・関心をもち、進んで調べようとするとともに、地域社会の一員として協力することができる。（関・意・態）
- ・地域の人々が協力して住みよい環境づくりにつとめていることを考えることができる。  
（思・判）
- ・清掃活動に参加している人たちから聞き取ったこと、気付いたことを分かりやすく表現することができる。（観・資・表）
- ・住みよい環境づくりのために地域の人々が清掃活動に取り組んでいることを理解することができる。（知・理）

#### 3 研究主題とのかかわり

本小単元では、地域清掃を行っている地区の老人会の人たちへの聞き取り活動や、一緒に地域清掃を行う体験的学習を中心に進めた。そのような学習活動の中で、日頃気付かないところで地域の人々が活動していることに児童の目は向き、人々の願いや努力を実感をもってとらえられるとともに、自分たちも地域社会の一員として協力しようとする意識が高められるものと考えた。

認識・心情の過程	体験的学習を通して期待する主な学習内容	
・生活を振り返る	身近な人々がよりよい環境づくりのために活動している事実をとらえる。	観察・調査 社会参加
・かかわり ・働きかける ・願いや営み ・共鳴・共感	実際に活動している人々に話を聞いたり、一緒に清掃活動を行うことによって、人々の願いや努力に共感するとともに、地域の清掃についての自分なりの考えをもつ。	観察・調査 社会参加
・自分の生活に生かす	老人会の人たちに、感謝の手紙を書く活動を通して、よりよい環境づくりのために、自分たちでもできることを明らかにし、実践していこうとする意識を高める。	制作 （手紙を書く）

#### 4 実践記録



## 5 考察

- 観察・調査や清掃活動への参加という体験的学習により、児童の意欲は高まり、実感として人々の心情や自分たちとのかかわりをとらえることができた。
- 学習したこと、体験したことを自分の生活に生かすことができるようにするためには、児童が活動を意味付けしたり、価値付けしたりすることができるような支援が必要である。学習の方向性を明確化して体験を繰り返す中で、一人一人の意識の高まりがみられた。

## VI 研究の成果と今後の課題

### 1 研究の成果

- 中学年児童において「地域社会の一員としての自覚」とは何かについて13項目の児童像で示し、その児童像にせまるための体験的学習の内容や方向性を示すことができた。
- 児童の認識・心情の過程に即して、体験的な学習を組み立て、その具体的展開を通した「地域社会の一員としての自覚」の高まりの道筋を明らかにすることができた。
- 児童一人一人の学習活動の評価とそれに応じた具体的な支援とによって、個の学習を成立させるための方法を明らかにすることができた。

### 2 今後の課題

- 体験的学習をより一層豊かなものにするために、地域の人材や素材を発掘し、地域との交流を日常的に進めていくことができるように、指導計画の中に位置付けを図る。
- 「地域社会の一員としての自覚」を高めていく際に、体験的学習と他の多様な学習活動（表現活動等）との関連のさせ方について、実証的に解明していく。

一人一人の児童が、産業や国土の様子について

自ら問題をもって見方・考え方を深めていくことができる指導の工夫

## I 主題設定の理由

本分科会では、まず社会科の学習に対する児童の実態調査を行った。その結果、児童は興味・関心をもっていることを調べたりまとめたりする学習が好きであることが分かった。また児童は、自分なりの多様な追究方法・表現方法を取り入れて学習を進めたいと考えていることも分かった。しかし、児童が実際に行っている学習問題の追究は、えてして、社会的事象面だけにとどまり、自分とのかかわりでとらえることが少なく、社会的事象に対する見方・考え方が不十分であることも分かった。そこで一人一人の児童の興味・関心に基づいて自分なりの見方・考え方を深める学習が必要となってくる。

すなわち、児童一人一人が基礎的なことを身に付けるとともに、自らの学習問題を自らの方法で意欲的に解決することを通して、自らの考え方を深めていく学習指導が大切となる。

そこで、児童一人一人が産業や国土の様子について問題意識をもち、それを自分の問題として意欲的に追究していくことによって、社会的事象に対する見方・考え方を深めていくことができるような指導の工夫の在り方を求めて、主題を上記のように設定した。

## II 研究のねらい

児童一人一人が産業や国土の様子について自分なりの見方・考え方を深めることができるようになるために、学習過程・学習活動の工夫とそれに伴う評価・支援の在り方をどのように工夫したらよいかを明らかにする。

## III 研究の仮説

- 児童一人一人の学習活動の様子を評価し、児童相互の交流を促す等の評価・支援を行うことにより、児童は自分なりの見方・考え方を深めることができる。
- 人間の営みを追究し、多様な生き方に共感できるような学習過程や学習活動を工夫することにより、児童は見方・考え方を深めることができる。

## IV 研究の内容と方法

### 1 人とのかかわりについて

一人一人の児童が自らの学習問題を自らの方法で意欲的に追究することを通して、自らの見方・考え方を深めていくようにすることが大切である。そのためには、学習の中で児童が人とのかかわりを実感することができる具体的な活動を行うようにすることが必要である。

なぜなら人とのかかわりを重視した学習により、知識を得ると同時に、協力し合って働いている様子や仕事に打ち込む真摯な姿、生産への願いや工夫・努力、仕事への喜びや誇りに触れたり、感じたりすることができるからである。それにより、児童は人の社会的営みに対して共感を覚え、意欲的に追究し、社会的事象に対する見方・考え方を深めることができると思う。

### ○ 人とのかかわりをもった活動

伝統工業の単元で、紙すき職人のSさんの仕事の様子のVTRを見ることにより、自分の体験した紙すきとの違いをいろいろ発見し、発表し合う中で仕事にけるひたむきさや苦勞等に気付いていった。

・事例（小単元「伝統工業」の児童のノートより）

O児「毎日紙をすいているはずなのに、すいている紙を見る目が真剣なのに驚いた。」

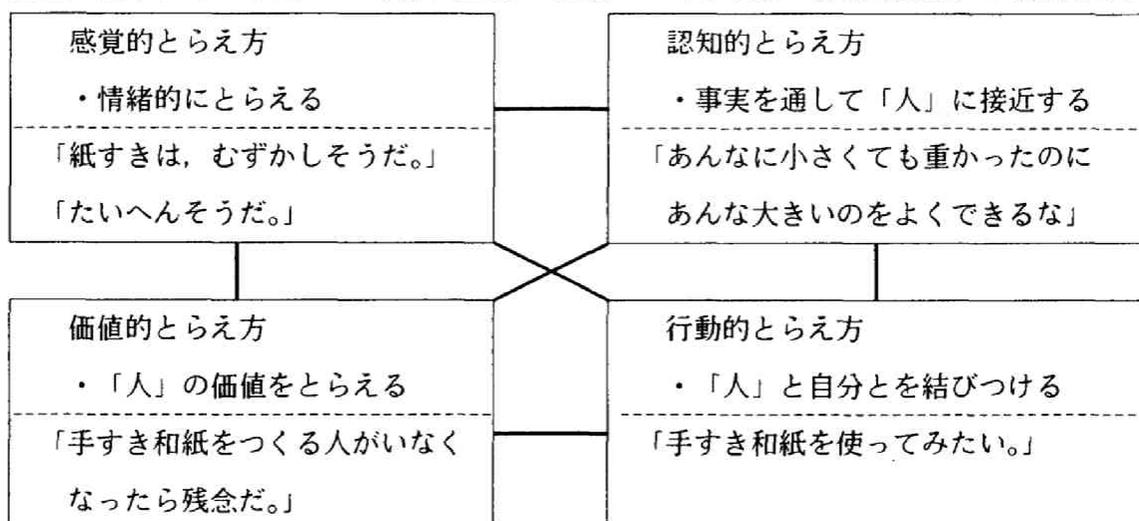
M児「1枚すくのものにも大変だったのに、あれより大きいものを500枚もすくのはとても大変だ。」

## 2 共感的理解について

### (1) 産業に従事している人々への共感的理解の分類

分科会として、共感的理解を「人の生き方にせまり、自分とのかかわりで人をとらえること」ととらえ、次のように分類した。

産業に従事している人々への共感的理解の分類（小単元「伝統的工業」の授業より）



### (2) 産業に従事している人々への共感的理解をせまる学習過程

先の共感的理解の分類を参考にし、〈人に出会う→せまる→共感する〉という学習の流れを考えた。

	学 習 過 程	主な学習活動等	評価・支援のポイント	具 体 例
人との出会い	<ul style="list-style-type: none"> <li>驚き、興味、関心などを大切に、追究意欲をもつ。 (出会った「人」に対する興味・関心をもつことができるようにする。)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>Sさんがすいた和紙(もの)と機械すき和紙とを、自由に比較する。(間接的出会い)</li> <li>2枚の和紙の比較からどうして値段の違いが生まれるのかを予想する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童がどのような驚き、興味・関心をもったかを見取り、一人一人が学習問題を設定できるようにすることが大切である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>和紙の値段の大きな違いから「ほかのもので似ているけれど値段が違うものがあるでしょう」と経験を振り返るよう促す。</li> </ul>
人にせまる	<ul style="list-style-type: none"> <li>「人」をとりまく社会的事象を資料を活用して追究する。 (「人」をとりまく社会的事象に対する見方・考え方をもちることができるようにする。)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>Sさんを取りまく小川和紙の状況について追究する。 立地条件、原料、作り方、生産量、消費量、職人の減少等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童が多様な資料をもとに、人を取りまく社会的事象をつかんで調べようとしているかを見取り、追究活動が進められるようにすることが大切である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>活動している様子を見取り、「いいことを調べているよ」と称賛する。</li> <li>つまずきを見取り、「ああのグループの資料の使い方を参考にしてください」と交流するように勧める。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>「人」の生き方を追究する。 (手紙、電話、直接会う等の直接的な追究を通して「人」の心情面にせまることができるようにする。)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>紙すきの体験をする。</li> <li>SさんのVTRを視聴する。</li> <li>Sさんが紙すきを続ける理由を考え、手紙で尋ねる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童の「人」のとらえ方を見取り、「人」の心情面にせまるようにすることが大切である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>VTRでSさんの仕事の様子から人にせまれる点に気付かない場合「何を考えながらすいているのだろう」や「どんな願いをもって紙を扱っているのだろう」の視点を与え、再視聴を促す。</li> </ul>
人に共感する	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分とのかかわりで「人」をとらえる。 (自分なりに考えを深め、それを作品にまとめることができるようにする。)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>Sさんの返事をもとに自分の生活を振り返り、「学習のまとめ」を書く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分とのかかわりで「人」をとらえているかを見取り、自分の生活を振り返るようにしたり、自分を相手の立場に置き換えたりすることが大切である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分とのかかわりでとらえている児童同士に意見の交流を勧め、とらえていない児童には、「Sさんの生き方は、自分の生活や夢と比べるとどうなの？」と自分の生活に置き換えるよう促す。</li> </ul>

(「伝統的工業」の授業より)

### (3) 産業に従事している人々への共感的理解を促す学習活動

#### ア 体験的活動

人の苦勞・工夫・努力に気付くような体験を取り入れたい。体験することにより単なる知識としてではなく、実感を伴って理解することができ、人の工夫、苦勞にせまっていくことが可能になると考える。

ただここで留意しなければならないのは、何のために体験を取り入れるのか、何を体験するのかを明確にすることである。その体験的活動の位置付けに留意しなければならない。

学習過程の「せまる段階」では、一人一人の児童が和紙の作り方を確かめたり、手すき和紙の技術の難しさ、仕事の大変さをとらえたり、伝統を守る生き方に触れたりするために、紙すき体験を取り入れた。

・事例(「振り返りカード」より)

S児「だいたんにすきけたをまわせと言われたが、重くてできなかった。」

## イ 人にせまる活動

人にせまる活動はさまざまな方法がある。切り口としてその人の作品から追究する方法、あるいは、その人に関する資料やその人を取りまく状況の資料をもとに、事実把握をし、追究する方法などが考えられる。さらには、実際にその人を取材したり、手紙、電話などによる直接的な手段による方法等が考えられる。このような方法により人に接近していくことで、人の苦労や工夫、願いなどを実感をもって理解し、人の生き方に共感することができる。

・事例（「Sさんの返事に対する感想」より）

N児「Sさんは和紙を使うお客さんに喜んでもらえることがうれしいので、和紙づくりの仕事を続けているのですね。早く後継者が見つかるといいですね。もし私ができるのなら、Sさんの弟子になって紙すきの仕事を手伝えたらと思います。」

## ウ 一人一人の「考え」の交流活動

交流するためには、まず自らの考えをはっきりとさせなければならない。はっきりとしたところから、友達の考え方を知り、自らを顧みて、修正したり、取り入れたり、補足したりすることができる。また、友達から刺激を受け、意欲をかきたてられたり、自分と異なった考えや態度をとる友達への共感を生んだりすることができる。

・事例（「振り返りカード」より）

「どのような願いをもって仕事を続けるのか」にかかわって

I児「技術をなくさないようにするために、Sさんは仕事を続けている。」

↓（考えの交流活動）

I児「Sさんは技術をなくさないためだけでなく、紙すきの仕事を好きだから続けていると考えた。」

## 3 学習過程・学習活動に対応した評価・支援について（「伝統的工業」の授業より）

### (1) 「出会う」段階での評価・援助

手すき(A)と機械すき(B)の2種類の和紙の比較からはいった。児童は紙の匂いを嗅いだり、やぶいたりしながら様々な考えを出した。「これは和紙ではないか」、「BよりもAの方が丈夫である」「Bは再生紙である」といったように今までの自分たちの経験を生かして考えていた。その後、それぞれの紙の値段（手すき1200円、機械すき250円）を提示したことで児童に「なぜ、そんなに値段が違うのか」という疑問が生じてきた。この時点でS児は値段の違いには驚きながらその理由までは考えることはできなかった。そこで「他のもので、似ているが値段が違うものはないか」と考える視点を示すと、「車は外国製の

方が高いからきっとこの紙も外国製ではないか」という予想を発表した。Y児はその考えに対して「洋服は日本製の方が高いから、安いほうが外国製だ」という予想を発表した。さらに視点を変えると「原料の違い」「作った人や会社の違い」「作り方の違い」等が予想として出された。

この段階の支援では、学習問題を一人一人がもてるようにするために様々な考えを交流することや児童のこれまでの経験を呼び起こすようにすることが大切である。

## (2) 「せまる」段階での評価・援助

児童はグループに分かれ「和紙の原料」「和紙の作り方」「和紙の産地」「和紙の使われ方」についてそれぞれ追究していった。児童はそれまでの学習で身に付けた追究方法を生かして、図書室で和紙に関する本を探したり、各自が所有する資料を持ってきたりして調べた。そこで児童の活動の様子を見守りながら、「よく見つけたね」、「いいこと調べてるね」と追究意欲を高めたり、持続するような励ましや称賛をした。また、どのような本を見ればいいのかわからないグループに対し書名を教えたり、他のグループの様子を参考にするように助言したりした。また、あるグループから「和紙をすいてみたいので材料がほしい」と要求があり、他のグループからは「黒皮と白皮とあるがよくわからない」と相談され、教師所有の資料（文献や実物）を提示した。

このように、この段階での支援は、児童自身が学習問題に向って追究している様子を見守りながら、児童からの要求を満たすことや相談にのることなどで児童が問題の解決を図れるようにすることと、意欲を高めたり持続して追究したりできるよう児童に励ましや称賛の言葉かけをすることが大切である。

## (3) 「共感する」段階での評価・支援

S児は自分の追究結果から、まず「1日に10時間以上も働いているので驚いた」と認知的にとらえていた。Sさんの話を聞いた後は、「和紙すきのあとを子供が継いでくれないと聞いて少し悲しかったです。それに職人さんがいなくなると残念です。」と価値的にとらえ方も加えるようになった。

そこで、さらに自分の生活と較べて考えるように視点を示したことにより、「伝統工業を守ることはすばらしいと思った。でも私にはあのような大変な仕事は自信がない。私は和紙ではなく自分の夢の方へSさんみたいに歩いていきたい。」と発表した。

この段階では、児童がどのようなとらえ方で人に共感しているのかを見取り、前述の四つのとらえ方に広げられることができるような支援を、例えば「資料の提示」、「考えの交流」、「考える視点の例示」等により行い児童の人への共感的理解を促すことが大切である。

## V 研究のまとめと今後の課題

- 1 児童の興味・関心や疑問、考えを、発言や表情、ノートや作品、教師からの問いかけに対する反応等により見取り、学習活動に対して励ましや称賛の言葉かけをしたり、児童自身の要求からくる高次の学習内容や追究方法、資料等で相談にのったりすることで、児童は意欲をもって学習に取り組み、学習問題に対する自分なりの考えをもつことができるようになった。さらに、児童相互の考えの交流の場をもつことにより、自らの考えを確認したり、修正や補足を加えたりし、見方・考え方を深めることができるようになった。
- 2 「つかむ」段階での学習において、児童の興味・関心に沿った資料を、疑問や驚きを生じさせるように工夫して提示し、人との「出会い」を焦点化させたことにより、児童は人間の営みの追究という視点に立って学習を進めることができた。人とのかかわりで学習を進めることにより、児童は学習する社会的事象を身近に感じ、意欲的に追究し考えるようになり、出会った人の生き方を共感的に理解し、見方・考え方を深めていくことができた。
- 3 実践した単元以外の学習にも「人とのかかわり」を取り入れる方法を明らかにすることや、児童の学習状況をより詳しく評価する方法をさらに工夫していくことが今後の課題である。

研究主題

〈第5学年B分科会〉

一人一人の児童が、産業や国土の様子について、意欲的に追究し、自分なりの  
見方・考え方を深めていく指導の工夫

追究の段階における評価・支援を中心として

### I 主題設定の理由

#### 1 新しい学力観・指導観から

これからの学校教育においては、時代的要請を受けて、どちらかというとならば画一的で固定的な知識を一方向的に伝達しがちであった従来の教育の在り方を、大きく転換していくことが強く求められている。

その新しい教育の在り方を具体的な言葉で言い換えるならば、

- ①自ら学ぶ意欲を大切にする。
- ②驚きや感動のある学習材により、児童自らが必要感を伴う問題をもてるようにする。
- ③問題の解決にあたっては個々の興味・関心や既有知識や体験によって資料や学習の方法が選択できる、柔軟な学習過程を工夫する。
- ④個々の学習状況を評価し、それを指導に生かすようにする。

⑤生きるために必要な知識や技能を獲得できるようにする。

と言える。

本分科会では、この新しい教育の在り方を具現化するために、上記の主題を設定し、研究を進めた。

## 2 全体主題との関連

本分科会では、全体主題「一人一人の児童が意欲的に学習し、社会生活の意味について自分なりの見方・考え方を深めていくための指導の工夫」に示されている「意欲的に学習すること」と「社会生活の意味について自分なりの見方・考え方を深めること」とは相互に支えあう関係にあるととらえた。

そして、本分科会では、研究の焦点化をはかるために、学習過程全体を通しての研究ではなく、次にあげる理由から、学習問題を個々の学習計画にしたがって追究する段階を中心とした研究を進めることにした。

学習過程の中にあって「追究」の段階とは、単元のねらいに迫る学習問題に対して、一人一人の児童が多種多様な方法で問題の解決に当たっていく段階である。

この段階においての児童に対する働きかけには次のような難しさがある。

①使用させる資料や学習問題への迫り方などを限定し過ぎることで児童の追究活動が画一化され、学習問題に対する追究意欲を減退させてしまう。

②個々の追究活動を全て容認することにより学習の方向と内容がねらいからそれ、深まりの少ない学習で終わらせてしまう。

そこで、本分科会では、一人一人の個性や追究に対する意欲を尊重しながら、社会的事象に対する見方・考え方を深めるために、「追究」の段階において、どのような視点で児童の学習状況を評価し、どのような支援をしたらよいかということに焦点を当てて研究を進めようと考えた。

## II 研究のねらい

一人一人の児童が産業や国土の様子について意欲的に追究し、自分なりの見方・考え方を深めていくためには、どのような評価や支援が必要であるかを明らかにする。

## III 研究の仮説

以上のような点から、追究段階の評価と支援を研究の中心として、次のような研究仮説を設定し、研究を進めた。

「一人一人の児童が産業や国土の様子について意欲的に追究し、自分なりの見方・考え方を深めていくためには、追究の段階において、教師は一人一人の児童の学習計画に対応した

資料を資料相互の関連を考えて準備し、児童が選択した資料から思考の流れを見取り、資料活用に対する助言や学習方法に関する相談などを行うことが必要である。」

#### IV 研究の内容

本研究は「追究の段階」における評価と支援にしほりこんだ研究である。しかし、この追究の段階において、一人一人の児童が学習問題に対して意欲的に追究し、自分なりの見方・考え方を深めていくためには、追究の段階にいたるまでの学習が大変重要になることは言うまでもない。

そこで、「工業生産と公害」の実践をもとに「学習過程」「評価と支援」について研究の内容をまとめることにする。

##### 1 学習過程の各段階における児童の活動と評価の観点・支援の方法

	主な学習活動	評価の観点	支援等
問題に気付く段階	①水俣病で苦しむ患者の写真で、気付いたことや疑問に思ったことをワークシートに書き込む。	←児童の興味・感心はどのような方向性をもっているか <関心・意欲・態度>	→◇一人一人の児童の気付きや疑問を受け止める。 ◇ワークシートに書かれた疑問を基に、児童の思考に対応
	②一番調べて見たいことを必要な資料を選択して調べ、自分なりの方法でまとめる。	←自分で調べる問題に関する資料を選択しようとしている。 <資料活用・表現>	→した資料を準備する。 ◇資料の活用方法や読み取り方を助言する。
	③調べて分かったことを友達の発表内容と関連させながら発表する。 また、発表された内容をワークシートにまとめる。	←自分で調べたことを友達の意見とどこように関連づけようとしているか。 <思考・判断> ←水俣病の原因や解決までの人々の努力をワークシートにまとめることができたか。 <知識・理解>	→◇典型事例である「水俣病」について構造的に理解できるように発表内容を整理して板書する。 ◇板書された内容を参考にするよう助言する。
4時間			

<p>問題 を 明 確 に す る</p> <p>1 時 間</p>	<p>④全国の公害の状況を見て、←学習問題を解決すべき問題→ 公害が全国的に広がっていることに気付くとともに、F市の状況からこれからさらに調べていきたい問題を話し合い、学習問題を明確にする。</p>	<p>として捉えようとしているか。  &lt;思考・判断&gt;</p>	<p>◇学習問題が明確になるよう F市の状況を認識できるような助言をする。</p>
<p>F市を排気ガスの多い町にしないためにはどのような努力が必要か、みんなで調べて「F市排気ガス防止対策会議」を開こう。</p>			
<p>追 究 す る 段 階</p> <p>3 時 間</p>	<p>⑧グループや個人でF市を排気ガスの多い町にしないための努力について、選択した資料に書かれた内容をもとに自分の意見にまとめる。</p>	<p>←学習問題に対してどのよう な考えをもって迫ろうとして いるか。  個々の児童が選択した資料はどの資料群に属するものか。  &lt;思考・判断&gt; 資料を考え広めたり深めたりするために活用しているか。  &lt;資料活用・表現&gt;</p>	<p>◇資料を例示し、学習方法についての相談に応じる。  ◇別の資料群の資料のなかで、つながりのある資料を例示し、選択できるようにする。  ◇同じ資料群の中で、資料相互のつながりに気付くことができるような助言をする。</p>
<p>認 識 を 深 め る 段 階</p> <p>1 時 間</p>	<p>⑦F市排気ガス防止対策会議を開き、「誰がどのような努力をすることが大切か」自分の考えをもとにした話し合いをする。  ⑩対策会議を通して分かったことや感じたことをまとめる。</p>	<p>←排気ガスを少なくするため の工夫や努力について自分 なりの考えを持ち、自分 なりの言葉で表現しよう としているか。  &lt;思考・判断・表現&gt;</p> <p>←対策会議を通して自分の 意見や感想として付け加 わったり修正されたことは 何か  &lt;知識・理解&gt;</p>	<p>◇話し合いがうまく進められるように話し合いの仕方や記録の仕方を助言する。</p>

## 2 学習過程の背景にあるものについて

### (1) 「学習問題を明確にする」までの過程でおさえておきたい内容

典型となる事例として「水俣病」を取り上げ、個々の疑問を追究した内容をもとに公害について下に示したような構造的な理解を図り、学習問題に迫るための手がかりとした。

また、児童にとって公害問題の解決を身近で切実感のある問題にするために「F市の大気汚染」の事例を取り上げ学習問題を明確に意識できるようにした。

#### —— 水俣病の原因・症状 ——

・ どうしてこんなになったのか・ 亡くなった人はいたか・ この人は亡くなってしまうのか



〈 ・ は個々の疑問 〉

#### —— 解決のための努力 ——

・ 今はどうしているのか・ 誰がなおしたのか・ 今のぼくたちは大丈夫か。何をすべきか

### (2) 「追究の段階」における評価と支援

学習問題に対して一人一人の児童がもった自分の「意見」を記入した学習計画表から個々の意見を読み取り、その意見を深める上で必要と思われる資料を複数準備し、児童自身が選択できるようにした。(児童自身が資料収集や調査・見学・取材等を行うことは前提としている。)

#### 〈 個々の意見 〉

「法律で規制するとよい。」



#### —— Aグループ —— 〈 個々の意見を追究するための資料群 〉

国はこれまでの反省に基づいて環境基準を定め、それを守る努力をしていることが調べられる資料群

「市役所が公害の恐ろしさを知らせるようにするとよい。」



#### —— Bグループ ——

地方公共団体は、国が定めた法律を守らせるために努力をしていることが調べられる資料群

「企業が排気ガスの出ない車を開発するとよい。」



#### —— Cグループ ——

企業は、国が定めた法律を守る努力をしていることが調べられる資料群

「私たちが車の使用量を減らすようにするとよい。」



#### —— Dグループ ——

住民は自分たちの手で環境を守る努力をしていることが調べられる資料群

さらに、追究している児童の思考の流れ（どのような意見をもとうとしているか）を、児童が選択した資料から見取り、意見を深め、広めていけるように、他の視点からの資料を例示したり、個々の児童の意見が全体に分かるような表の掲示や情報交換・意見交換の場を設定したりするなどして、自分の学習問題を自分なりの方法で追究していけるようにした。

このような個に即した具体的な評価と支援によって、児童の追究意欲は持続し、身近な公害問題についての認識を深めていくことができた。

## V 研究の成果と今後の課題

### 1 研究の成果

児童の問題意識を尊重し、社会生活の意味について自分なりの見方・考え方を深めたり広めたりできるようにするためには、次のような評価や支援が必要であることが明らかになった。

- ①「問題に気付く段階」では単元のねらいとなる概念に気付くことができるよう、個々の調べたい内容をもとに必要な資料を準備したり、個々の調べた内容を構造的に整理できるようなワークシートの工夫をしたりする。このことが追究の活動を意欲的にすることになる。
- ②「追究の段階」では、学習問題に対する個々の見方・考え方が深められるよう児童自ら必要な資料を探ることができるようにすることを大切にすると同時に、学習計画表や学習問題に対する話し合いでの発言内容から、一人一人の児童の見方・考え方を深めたり広げたりできるような資料を資料相互の関連を考慮しながら準備し、相談に応じられるようにすることが必要である。（資料群の設定とその活用への支援）
- ③「追究の段階」では、「児童の選んだ資料が、どの資料群に属しているか」という観点で個々の学習状況を評価し、個々の見方・考え方を深めたり、広めたりするために必要な資料の例示や情報交換・意見交換などの場の設定、個々の意見の掲示などの支援を行うことが大切である。

### 2 研究の課題

学習問題の性格によって、児童の見方・考え方がどのように深まったり、広まったりしていくのかが予想しにくく、資料群の作成が難しくなるものがある。

どの單元においても、個々の見方・考え方を深めたり広げたり、学習内容を概念化したりできるような資料の在り方や資料群を構成するための方法についてさらに研究を深め、児童の相談に柔軟に応じられるよう、それらの多様化を図る必要がある。

一人一人の児童が、歴史的事象について自らの問題を追究し、  
自分なりの見方・考え方を深めていくための学び合う学習活動と評価・支援の工夫

## I 研究主題設定の理由

児童は、今までの生活経験や学習の中から、歴史的人物や地域に残る史跡についての自分なりの見方・考え方を身に付けている。そこで一人一人の児童が自らの問題を持ち、意欲的に追究し、事実に基づいた時代のイメージをもつという問題解決的な学習を繰り返すことによって、歴史的事象についての自分なりの見方・考え方を一層深めていくことができる。

歴史的事象についての自分なりの見方・考え方は、児童が互いにかかわり合いながら学習を進め、歴史的事象の意味やそれら相互の関連を考え、より広い視野から時代をとらえていくことで、確かな時代のイメージとして構築されていく。そのためには、資料についていろいろな視点から検討したり話し合いに活用したりすること、予想や考えを出し合って自分の考えを見直したり広げたり深めたりすることが重要である。また、こうした学習における児童の学習状況は、発言や行動、態度など、学習や生活の全体の中に現れるため、教師が一人一人の学習状況を多面的、継続的に見取り、評価・支援を行うことが重要であると考えられる。

以上のことから、学び合う学習活動の工夫や評価・支援のあり方を研究の中心として進めたいと考え、上記の研究主題を設定した。

## II 研究のねらい

一人一人の児童が、歴史的事象について自分なりの見方・考え方を見直したり広げたり深めたりするために、児童が互いにかかわり合いながら進める『学び合う』学習活動と、評価・支援のあり方を明らかにする。

## III 研究の仮説

- 児童の興味・関心や問題意識を大切にしながら、児童相互の『学び合う』学習活動を問題解決的な学習過程に位置付けることによって、歴史的事象についての自分なりの見方・考え方を見直したり広げたり深めたりしていくことができる。
- 『学び合う』学習活動の場面において一人一人の学習状況を評価・支援することによって、歴史的事象についての自分なりの見方・考え方を見直したり広げたり深めたりしていくことができる。

#### IV 研究の内容と方法

##### 1 歴史的事象について自分なりの見方・考え方を深める児童の姿

本分科会では、歴史的事象について自分なりの見方・考え方を深めることができる児童の姿を「人物の働きや文化遺産などの事物・事象について、自分なりの見方・考え方を見直したり、広げたり、深めたりしながら多面的にとらえ、その時代の特徴を理解することができる子ども」ととらえた。

—— 歴史的事象についての見方・考え方の深まりの姿（育てたい児童像） ——

- |                    |                       |
|--------------------|-----------------------|
| ①前の時代と比較・関連付けてとらえる | ②相互の歴史的事象を関連付けてとらえる   |
| ③歴史的事象の契機、影響をとらえる  | ④当時の様々な人々の気持や考えをとらえる  |
| ⑤人物の果たした役割をつかむ     | ⑥人物の願いや苦勞に共感する        |
| ⑦歴史的事象の意味を多面的にとらえる | ⑧歴史的事象の意味に対する興味・関心をもつ |
| ⑨自分なりにその時代のイメージをもつ | ⑩歴史の担い手としての自分を見つめる    |

自分なりの見方・考え方を「見直したり」「広げたり」「深めたり」することは互いに関連し合っているが、ここでは次のようにわけた。

○見直す→自分なりの見方・考え方を振り返り、吟味する。

○広げる→自分なりの見方・考え方の視点を多面的にする。

○深める→歴史的事象を他と比較したり、因果関係を明らかにしたりして、自分なりの見方・考え方をつくる。



##### 2 児童相互に学び合うことの意義

自分なりの見方・考え方を深めていくためには、まず、一人一人の児童の興味・関心、発想、理解の仕方などの特性に応じた指導や支援を行い、学習の個性化、個別化を図っていくことが必要である。そのためには、一人一人の児童が学習問題、学習順序、学習形態、資料、まとめ方などを自分で決める経験をもつことが大切である。それは、それらを自分で選択することによって自分の見方・考え方により意味での<sup>こ</sup>だわりが生まれるからである。

こうした自分なりのこだわりをもった児童が、互いのよさに気づき、練り合い、磨き合い、深め合うためには、児童相互の『学び合い』が必要である。学び合うことによって、学級の友達のような発想や思考の仕方を知り、よいと思われるものを取り入れることができるとともに、自分の考えをよりはっきりさせることができる。また、表現の場が増えることにより表現力を高めることもできる。こうして、歴史的な見方・考え方を深めることができるようになる。つまり、児童の興味・関心や問題意識を大切にしながら、学習意欲を高める学習過程を組み、その中に児童が互いにかかわり合いながら進める『学び合う』学習活動を位置付

けていくことによって、児童の見方・考え方を深めていくことができると思う。

(1) 学び合う学習活動の位置付け

一人一人の児童が、歴史的事象について自らの問題を追究し自分なりの見方・考え方を深めていくためには、「気付き合う」・「練り合う」・「磨き合う」・「深め合う」といった『学び合う』学習活動を、小単元全体を通した問題解決的な学習過程に即して位置付けていく必要がある。

学び合いの活動	『学び合う』学習活動の観点
気付き合う 問題の発見	歴史的事象についての気付きを交換し合い、自分の気付きを広げる。その時代への興味・関心、問題意識を高め、進んで調べようとする意欲をもつ。
練り合う 問題の明確化	共通学習問題についての予想を出し合い、自分の予想を修正・補充・変更、深化する。個別の学習問題を出し合い、自分なりの解決の見通し（調べる内容、学習形態、資料、まとめ方）を明確にする。
磨き合う 追 究	追究内容・方法の情報交換をし、自分の内容を見直し、修正・補充・変更、深化し、多面的な調べ活動を行い、事実の関連・意味付けをする。ねらい、調べ方、まとめ方に応じた協働学習をする。
深め合う 概 念 化	友達の考えを受け入れ、自分の見方・考え方を修正・補充・変更、深化し、自分なりの時代のイメージをもつ。歴史への興味・関心を高め、さらに調べようとする意欲をもつ。

(2) 学び合う学習活動の工夫

上記の『学び合う』学習活動の観点に即して、「カードを使った分類整理」、「共通の資料の読み取り」、「資料の自主選択」、「小集団による話し合い」、「問題別学習」、「方法別学習」、「自分の考えの練り直し」などの活動を組み入れるようにした。

(3) 一人一人のよさや可能性が活かされるような評価・支援

問題解決的な学習過程において、一人一人の児童のよさや可能性が活かされるような温かい肯定的な評価と一体になった支援を行う必要がある。そのために、評価規準・評価項目・評価の視点を設定し、児童一人一人がどのように自分なりの見方・考え方を深めていったのかを見取り、評価・支援していくようにした。

また、評価の方法として、児童の学習活動における発言、つぶやき、表情、行動、姿勢、写真・録音・VTRの記録、記述、作品などの観察や分析を行ったり、あるいは児童の自己評価・相互評価の活動を学習過程の中に位置付けたりした。

## V 実践事例

一人一人の児童が、自分なりの見方・考え方を見直したり広げたり深めたりすることができるように、問題解決の過程に即して児童相互が『学び合う』学習活動を設定した事例  
小单元『生活を変えた米作り～吉野ヶ里のムラの人々の暮らし』

### 1 本実践における観察対象児F子の見方・考え方の変容

	[学 習 活 動]	[学び合いの工夫]	[F子の見方・考え方の深まり]
問題の発見	吉野ヶ里のムラの全景を見て書き込み、発見をする。	共通の資料をもとに一人一人の気づきを発表し合う。	お米があるので、縄文時代と比べて食べ物に困らないようになったのではないかと。 ↓ 柵や高い櫓は、敵を防ぐためのものではないか。縄文時代と違って危ない時代。
問題の明確化	溝、柵、高い櫓などの役割について予想を話し合い、共通学習問題をつくる。	一人一人の予想を全体で話し合い、練り合う。	溝は田へ水を引くための用水路 ↓《考えの変更》 敵が攻めてきたときに溝に落ちてはい上がれないようにするためのもの。
追 究	個別の学習問題を発表し合い、明確にする。	『個別の学習問題一覧表』をもとに自由に情報交換をし、個別の学習問題を練る。	《F子の個別の学習問題》 ①争いは何が目的でしていたか。溝や高い櫓は争いと関係があるのか。 ②お米作りは何がきっかけで始まり、どのように生活を助けたのか。 ③弥生時代の道具は何が中心か。
概 念 化	個別の学習問題にそって調べる。	学習問題別、追究方法別など、必要に応じてグループを構成し、互いの情報を交換し合いながら内容を磨き合う。	米作りが伝わって食生活は安定したけれど、争いの原因になった。 ↓ 鉄器や銅器欲しさに争いが起こった。 ↓ 宮室にはムラオサが住んでいて、米作りの指導や神事をしていた。
概 念 化	共通学習問題について自分なりの考えを出し、吟味する。	調べた内容の中で大切なことを絵図に示したカードを使って発表し合い、考えを深め合う。	米作りによって人々の生活はだいぶ安定してきた。だが、米作りが始まったために水や土地をめぐる争いが起きた。さらに、鉄や銅を奪うためにも争いが起きた。また身分の差もでき、ムラオサは宮室という高床式の家に住んでいた。この時代は、米・鉄・銅による争いが起きた時代といえる。

## 2 本実践における見方・考え方を深める活動の実際

### (1) 一人一人がもつ予想を全体で話し合い、予想を練り合った例 〈問題の明確化の過程〉

これは、吉野ヶ里のムラの全景図にある「溝」「柵」「高い櫓」「高床式倉庫」等の役割について、一人一人がもつ予想を全体で話し合う活動により、考えを変更した場面である。

《「溝」の役割についての全体での話し合いの場面》

C<sub>1</sub>・溝は雨が降ったときに雨水が流れるためのもの。

C<sub>2</sub>・溝に水がためてあり、柵を越えてムラに人が侵入できないようにするためのもの。

F子・それに反対。溝は川の水を田に引く用水路の役目をしていると思う。

C<sub>3</sub>・C<sub>2</sub>君に賛成で、溝があれば柵を越えて入ってきた人もはい上がるのに時間がかかる。

T・溝の深さが分かる写真と、実際の深さを提示する。

F子・意見を変えて、C<sub>2</sub>君が言ったように、敵が攻めてきたとき溝に落ちてはい上がれないようにするためのもの。

《教師の評価》	《教師の支援》
F子は溝の役割について、「敵を防ぐためのもの」という意見に対立し、「田へ水を引く用水路」という考えを発言した。水田と関係付けて予想したと考えられる。さらに、溝の具体的な事実から考えさせたい。	溝の深さが分かる写真と実際の深さの資料を提示して、溝の深さを具体的にとらえることができるようにした。これによって、「敵を防ぐ」という友達の考えについても吟味できると考えた。

### (2) 個別に調べたことを発表し合い、共通学習問題についての考えを深め合った例

〈概念化の過程〉

これは、個別の学習問題にそって調べたことの中で、一番大切だと考える内容を絵図に示した“カード”を使って発表し合う活動により、考えが深まった場面である。

共通学習問題＝「吉野ヶ里のムラではどのような暮らしをしていたのだろうか」

① 《F子の自分なりの考え》

米作りによって人々の生活はだいぶ安定してきた。だが、米作りが始まったために、水や米や土地をめぐる争いが起きた。さらに鉄や青銅をうばうためにも争いが起きた。また、身分の差も表れ、ムラオサは宮室という高床式の家に住んでいた。このように、弥生時代はお米を中心とした時代だと考えました。

↓

② 《T男の墳丘墓についての発表》

ムラの外れの山は、なんとムラの実力者が死んだときに作られた墳丘墓という墓だ。そして、銅剣や銅鏡などの宝物が入っていて、これは身分の差を表すものだった。



③ 《F子の自分なりの考えの深まり》

調べられなかった墳丘墓についてT男君の発表を聞いて、身分の差を強調するものだということが分かった。今まで宮室だけで身分の差を考えていたが、墳丘墓からも考えることができた。



《教師の評価》	《教師の支援》
F子は「ムラの外れの山のようなところは何か」という自分の学習問題を調べ残している。墳丘墓を調べた友達の発表を取り入れて、さらに考えを深めさせたい。	“振り返りカード”に「墳丘墓を調べた友達の発表を聞くように」と助言を書き入れた。授業では、墳丘墓のことを調べた児童に、絵を使って発表するよう促した。

## VI 研究の成果と今後の課題

### 1 研究の成果

○共通の学習問題から個別の学習問題を設定し、調べる内容、学習形態、資料、まとめ方を児童が選択し学習の個別化を図ることで、児童は自分の学習問題にこだわりをもち、意欲的に追究活動を進めることができた。

○学習過程の「問題の発見」・「問題の明確化」・「追究」・「概念化」の各段階に、「資料から気付いたことを発表し合う」、「学習問題の予想を話し合う」、「調べた内容や方法の情報交換や意見交換をする」などの『学び合う』学習活動を取り入れることで、児童は新しい情報や自分と異なる考え方に触れ、自分なりの時代のイメージを修正・補充・変更、深化し、自分なりの見方・考え方を深めていくことができた。

○問題解決的な学習過程に即して評価の視点を四観点別に設定し、児童の学習状況を評価することにより、「今この児童にはどんな手だてが必要なのか。」という支援の内容を具体化することができ、児童の意欲的な追究活動や見方・考え方の深化を図ることができた。

### 2 今後の課題

○個々の児童の歴史的事象についての見方・考え方の深まりの状況を適切に評価するための視点や方法、及びそれを生かした支援の内容や方法について、今後さらに授業実践を通して深めていき、基本的な在り方を明らかにする。